

商 況

(日本製鐵販賣月報第1號轉載)

目 次

- 昭和14年自5月下旬至6月中の鐵鋼關係日誌
- 日本製鐵販賣旬報を月報と更刊の辨
- 海外鐵鋼事情
- 鐵鋼配給統制團體及鐵屑配給統制團體の追加

- 昭和14年6月及7月中の日本鋼材聯合會關係の日程
- 東京大阪鐵鋼市況
- 昭和14年6月中發表各種鋼材建値表

昭和14年自5月下旬至6月中の鐵鋼關係日誌

○去る11日に開催された薄板共販理事會では7月積販賣値段に關しては、政府の低物價政策及び日鐵の軍需注文に就いての價格引下げ等の問題もあり、又一方日本鋼材販賣會社の機構整備を目標に控へ問屋口錢其他建値方法に變更あるものと意料せられるが、今月は一應前月通り据置と決定した。又同共販組合の機構整備に就いては棒、形、鋼板、線材の各共販に於て日本鋼材販賣會社を設立し配給機構の整備に萬全を期せんとしつつあるに鑑み薄板共販に於ても之等諸情勢に順應して改革をなす事となり、理事長より選任せられたる委員を以て之が實行方法を考究する事となつた。

21日 日鐵では中華民國漢口市吉慶街101に漢口事務所を設置した。

○中支軍發表 軍は漢水以東地區の敵野戰軍主力撃碎の目的を完遂し既に次期作戦の準備に轉移せり。

○4月中の内外卸賣物價指數(昭和8年を基準とす)は次の如く日、滿兩國は引續き騰勢を示してゐるが英、米は逆に落潮を辿てゐる。(佛國のみ3月、△印は減)

日 本	147.9	(前月比)	0.5%
滿 洲 國	171.3		0.1
英 國	109.8	△	0.3
米 國	115.5	△	0.6
佛 國	175.5		0.7

22日 獨、伊間の親善及び同盟協定に調印がなされた。その内容の要は獨伊兩國は歐州全般に影響を及ぼす共同の利益問題に對しては意見を同じくする爲に常に連絡を保ち、政治的外交的援助を與へる、又一方が紛争に捲き込まれたる場合は他の一國は同盟國となり凡ゆる軍勢力を以て援助する事になつてゐる。尙有効期間は10ヶ年である。

24日 今週の米國製鋼作業率は全能力の48.5%と見積られ前週より3.1%の増加を示した。

25日 4月の全國生計費總指數(大正3年7月基準)は215.6と0.6%高を示した。

○厦門に於ける我海軍は抗日分子の鼓浪嶼潛入を防ぐ爲沿岸封鎖の布告を發した。

○昭和製鋼所は23日の滿洲國參議府會議を通過し本日公布された。それによると、昭和製鋼所は從來重要産業統制法第1條の許可を受けて設立されたものであるが、製鐵事業の重要性に鑑み今回特殊會社に改組されたものである。

26日 昭和14年度物動計畫は閣議の承認を得て企畫院總裁談の形式を以て其の概要が發表された。支那事變の目的を達成し

東亞新秩序の建設を行ふと共に、國際新情勢に對處し國運の進展を圖ることを根本の目標として生産力の擴充、貿易の振興、その他輸入力の増強、滿洲及支那の開發援助、一般民需物資の配給消費の規定等全般に亘る計畫方針を發表された。

○3月中の全國各日貨銀指數(大正3年7月基準)は316.9と前月の309.2に比べて2分5厘の續騰を示した。

28日 關東軍司令部發表 5月上旬來滿、蒙國境ノモンハン附近に不法侵入せる外蒙軍は其の後も依然撤退せず、殊に20日以後に於ては飛行機を以て越境を繰返すに至れるを以て、我飛行機隊は17機を撃墜した。我方に損害なし。

29日 英、佛、ソ三國協定は英、ソ間の諒解纏まらず停頓状態に餘儀なくされてゐるが、去る22日の獨、伊同盟に刺戟され又英ソ交渉は進展して來たので我政府としてはその成行に無關心たり得ず、隨時適切なる處置を講ずる旨申入をなした。

30日 大本營陸軍部では蘆溝橋事件の發端より去る4月末迄の日支兩軍交戦による彼我損害の綜合的結果を發表した。
占領地域——察哈爾、綏遠、河北、山東、山西、江蘇、安徽の全省及河南の大部、浙江、江西、湖北、廣東の各一部、海南島の全部。

面積——占領地の全面積1,562,938 km²にして我全土の2倍半弱。

彼我損害——事變以來の敵遺棄死體は936,345人であるが敵に與へたる損害は總計少くも230萬と判斷せらる、之に對し我戦死は59,998人である。

31日 ソ聯兼任外交人民委員モロトフ氏は聯邦民族合同會議に於て外蒙國境をソ聯國境と同様之を防衛すと述べた。又平和戦線結成に對する英、佛兩國の提案に對して之を拒否したと。

3日 日本製鐵では重役會を開き社長中井勵作氏の辭任を承認すると共に後任として常務取締役申松眞卿氏を内定し來る6月29日定時株主總會に附議決定する筈、尙監查役福田庸雄氏は日鐵礦業專務に就任する爲辭任する事となつたが、その缺員は補充せず、只常務取締役として現八幡製鐵所長取締役渡邊義介氏が昇格する事となつた。

8日 商工省では來る15日より實施される豫定の「商工省新機構の概要」を發表した。それによると鑛山局を廢し新に鑛産局を設け、その下に鑛政課、産金課、産銅課及び非鐵金屬課の四課を置き、別に鐵鋼局を設けその下に製鐵課、調整課及び特殊鋼課の三課を置き鐵鑛、鐵鋼及び特殊鋼等に關

する事務を掌らしむることとした。

○今週の米國製鋼作業率は全能力の 54.2% と見積られ、前週に比べて 2% の増加である。この活況は製鋼業者が最近相場安當時に行た約定品の引渡を急いでいる事を反映するものであると。

9日 軍司令部發表 軍は6月7日魯南の作戦を開始し本日敵魯蘇戦區の本據沂水を攻略せり。

○米國1級屑鐵相場はピッツバーク消費者渡 14 弗 50 仙~15 弗、紐育解渡輸出向 12 弗~12 弗 50 仙、レール屑輸出向ボストン貨車乗渡 13 弗 75 仙~14 弗。

10日 山東南部に於ける敵の本據で敵師團司令部の所在地たる莒縣を占領す。

12日 艦隊報道部發表 重慶及成都を急襲し敵戦闘機 18 機と空中戦を交へ 4 機を撃墜した。我方に被害なし。

○汪兆銘は「抗戦の真相」と題し再度聲明を發表し重ねて日支の和平提携の不動の所信を闡明した。

13日 日本鋼材聯合會常務委員會開催、諸共販の建値に關し新建値は8月1日より全面的に實施される事となつたのでそれ迄原則とし現契約品の積出のみに止め先物賣出は之を行はず緊急品の販賣に止める事となつた。

伸鐵工業組合の販賣會社株式割當に就いては 5,220 株と査定し聯合會保存の株式より割當される事となつた。

14日 棒鋼、半製品第2部共販理事會では8,9月積販賣値段は据置と發表す。

○半製品共販鋼塊部理事會開催、8,9月積販賣値段は据置と決定した。

尙鍛鋼用鋼塊値段に關しては、棒鋼共販にて鍛造棒鋼の建値の決定を見た上改めて協議する事とした。中間鋼鋼質のものは現行半製品共販第2部のエキストラを適用する事とした。短鋼塊其の他發生品の値段は各種鋼塊建値の 10 圓引と決定した。

○鋼板共販理事會では端板の統制に關して次の通り決定した

- (イ) 名稱を1級、2級等の級別とする事。
- (ロ) 値段は1級を170圓とし以下1級落毎に5圓引とす
- (ハ) 各組員は報告の級數に於て販賣する事。
- (ニ) 第1種シャーより第2種シャーへ引渡す場合の口銭は最高3%とし、當組員より直接第2種シャー又は問屋經由第2種シャーへ引渡す場合は第2種シャーへの到着値段が各級の最高3%増になるやうにする事。

(ホ) 配給経路は從來の關係を嚴守する事。
各組員の報告級數は次表の通りである。

	値段	日鐵	東海	徳山	川崎	鶴見	中山	大阪製鐵	吾端	大阪製鋼	大和
1級	170	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2級	165	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3級	160	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4級	155	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5級	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

販賣値段は前月通り踏襲する事とした。

○去る3月より4月に至り天津に於て我下士官が國共側テロ團の爲に斃され又程海關監督の英租界内に於ける射撃事件

あり、我方は之等事件の犯人引渡を英租界當局に折衝したるに、肯せず、又北支特に天津市内の治安維持の協力を要請したるに回答を遷延し誠意を認められず遂に我方は重大聲明を發し本日午前6時を期し英佛租界より日本租界支那街に至る通路7ヶ所を選び檢問檢索を實施して英租界を他地域より隔絶する事となつた。

15日 大本營陸軍部發表、5月中の北支、中支、南支等全支の各戦線に於ける戦果は次の如し。

遺棄死體 48,255 捕虜 3,504 鹵獲品山砲 2 迫撃砲 25 重機關銃 47 輕機關銃 236 小銃 181 拳銃 126 等、我が損害戦死 1,400

○5月中の全國生計費總指數(大正3年7月基準)は前月に引續き更に 0.6% 高を示し 216.8 となつた。

16日 今週米國製鋼作業率は全能力の 53.1% と見積られ前週より 1% の減少を示した。U.S スチール株は 46 弗。

20日 半製品共販理事會では薄板及鋳力板 4~6 月生産割當に對する材料シートバー及ナンバー1ヶ月約 11,000t の供給不足量に對して、(イ)半製品も鋼材も同一割合にて生産の増減をなすこと、(ロ)鋼板工場をしてシートバーの代用品を作らせる方法、(ハ)日鐵釜石の中形を犠牲にしてシートバーの生産に當らしむ、(ニ)不足シートバーの輸入をして薄板の生産に當らしむ等の對策が研究審議された。

7月積販賣値段は前月通据置と決定した。

○鋼板共販では7,8月積シャー向及問屋向販賣値段に關しては14日理事會に於て日本鋼材聯合會の次の指示に従ふ事となつた。即ち7,8月積販賣値段は日本鋼材販賣會社にて決定する新建値に遡及變更する事を條件として一應從來通りの値段に据置くこと。

21日 米國の今週製鋼作業率は 55% と見積られ 1.9% の増加を示したが商内は餘り増大しなかつた。7月末に1940年型自動車製造用鋼材買付が始まれば生産増加が豫想される。U.S スチール株は 47 弗、%

23日 ドイツ鐵鋼協會發表 5月中の銑鐵生産量 1,167,000t、同鋼 2,070,000t。

○天津英租界隔絶問題に關し現地の各種團體が反英運動に参加し空氣險惡となつた爲英租界當局では同碼頭一帶に駐屯兵、巡警を多數配置して嚴重なる戒嚴令を布いた。

○佛・土間の暫定相互援助取極に正式調印を了した。(5月6日の記事参照)

○棉花 600,000t ゴム約 80,000t の英米間のバーター協定成立し調印を了す。

○商工省調査に係る5月の13都市小賣物價指數は 136.4 で前月 134.8 に比べて 1.6 の騰貴を示した。(前年同月指數 118.3)

24日 艦隊報道部發表 海軍部隊は昨23日早朝舟山島南部某地點に敵前上陸を敢行、同日午後6時20分定海を完全に占領し引續き市内を掃蕩中なり。尙一部は既に岱山島をも占領せり。

27日 汕頭地方 35 km 潮汕鐵道の北端にある潮州を占領す。

○關東軍司令部發表 本日拂曉我戰團飛行隊は敵機約 200 の編隊とボイル湖上空に於て遭遇、約30分間に亙り空中戦の結果 98 機を確實に撃墜し、引續き我爆撃飛行隊は敵飛行機根據地たるタムスク上空を空襲地上の敵機約 30 を爆撃こ

れを炎上せしめたり。我方未だ3機歸還せず。

○5月20日ソ聯外蒙軍のノモンハン附近越境事件ポイル湖より北及び東に於ける大空中戦の本日迄の戦果は251機を撃墜し不時着爆破機数を合すれば283機となり之に對し我損害は僅かに9機である。

28日 天津の英租界隔絶問題を東京に於ける外交交渉に移すこととなり、現地代表の上京を待て現地軍當局の意向を基礎に交渉をされる事となつた。

○艦隊報道部発表 昨27日第三國に對し温州及福州兩港封鎖の宣言なせる我が海軍部隊は同日午前9時を期し新作戦行動を開始せり。即ち海軍陸戰隊は温州附近に於て虎頭島及び玉環坎門港に敵前上陸を敢行、同地域一帯を占領確保すると共に福州附近に於ては既に川石島を占領す。

29日 日鐵では第11回定時株主總會を開き第11期の營業報告書財産目録、貸借對照表及損益計算書の承認並第11期利益金處分案議決の件は原案通り可決し、社債100,000,000圓を數回に分ち募集のこととし、其の條件は取締役會に一任すること、中井社長の後任として中松眞卿氏を、常務取締役渡邊義介氏を夫々選任した。

自5月下旬至6月下旬爲替相場

區分	對米	對英	月日	對米	對英
5. 22	27- $\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	6. 11	"	$\frac{1}{2}$
23	27- $\frac{5}{16}$	"	12	"	"
24	"	"	13	"	"
25	"	"	14	"	"
26	"	"	15	"	"
27	"	"	16	27- $\frac{1}{4}$	"
29	"	"	17	27- $\frac{5}{16}$	"
30	"	"	19	"	"
31	"	"	20	"	"
6. 1	"	"	21	"	"
2	"	"	22	27- $\frac{1}{4}$	"
3	"	"	23	"	"
5	"	"	24	"	"
6	"	"	26	"	"
7	"	"	27	27- $\frac{5}{16}$	"
8	"	"	28	"	"
9	"	"	29	"	"
10	"	"	30	"	"

日本製鐵販賣旬報を月報に更刊の辯

今般販賣旬報を販賣月報と改稱し、大體從來の旬報同様の形式、内容を以て、毎月1回之を發行する事となつた。

第1號は手續上の都合に依て、7月15日發行となつたが、原則として發行日は毎月7日である。

改變の理由は、

(イ) 鋼材市場に於ける動きは昨年7月以來、切符制の實施と準公定値段の嚴守強行とに依て大いに制約され、市況に變動らしい變動の無いのが原則となつたが、其の後統制の擴大強化に連れて、此の傾向は漸次進展し、大勢的には市況は月報で事足る状態となつた事。

(ロ) 鐵鋼關係の數字が大部分發表禁止となつてをり旁々賣出會議に旬報子の列席が保留されてをる際、賣出會議議事録が大分遅れて回附される上に、其の内容が數字に基礎を置く専門的のものなので、各會議情勢の速報、報導は不能に近い。従つて賣出會議情勢關係の記事を重視して來た旬報としては、存在價值が大いに減じ、廢刊を決意するに至らしめられぬま

でも、賣出會議との關係に關する限りは、少くとも旬刊は要せざる事。

(ハ) 外註は問題が爲替許可の如何に移り、原料關係以外は値段も需給状態も殆ど利用價值を消失したるに、値段は文字通りの參考値段が稀に入るか入らぬかであり、而して數量的には發表禁止である。尙復海外の市況、情勢は勿論速報するに越した事はないが、現状に於ては記録と不急參考資料等としてのみ利用せらるゝの性質が一層顯現されてゐる。即ち鋼材界が海外事情に支配せられず、少くとも知る事を得る資料に依つては一喜一憂を畫かぬので、其の情勢速報は意義の大半を失ひ、月報にても差支へ無き状態となつた事。

(ニ) 數量關係の統計發表禁止に依て現實的には刊行の要を激減せしめられた事。

(ホ) 四圍の情勢が上述の如き推移を辿て、既に充分旬刊か否かが考へられてゐた折柄、鋼材販賣會社の設立に伴ふ部員の異動から、旬報關係に手不足を來すと云ふ機械的にして退引ならぬ事態が生じた事。

等々、大體斯くて旬報を變じて月報とする事となつたのである。哀情の情に堪へぬものがあるが、之れも時勢の然らしむる處であつて見れば、決然と赴くべきであらう。

由て、今後は販賣月報として相見えるので、此處に謹而御諒承を願ひ併せて今後とも倍舊の御叱正を冀ふ次第である。

＝旬報を送る＝

永い馴染の旬報であつて見れば過ぎ越し方を回顧して共に聊か名残りを惜み度くなるのは人情である。寸言以て旬報を送る事とする。

時代の要求に應じて製鐵所販賣部第1課及第2課が東京に乗り出し、折柄新装成りたる木挽町の出張所に本據を定め、業務を開始したのは大正15年3月1日で、販賣旬報の前身にして祖先である販賣部週報の生れたのが其の後間も無くの5月27日である。

此の週報が8月11日發行の第9號を以て販賣旬報と改稱され、此處に我が旬報が生れたのである。

而して其の後製鐵所が日鐵となり、代際寫で出されてゐたものが新聞紙法に依る刊行物となる等の遷り變りは有ても、此處に根を下した旬報は枝を張り、實をつけて健全に生長し、連綿として13星霜、報導機關としての使命を果しつゝ今日に至つたのである。

抑々本報は手鹽にかけて育て上げた吾が製品が、如何に處分せられるかを、廣く日鐵所屬従業員に知らしむるを主眼とし、同時に販賣關係の動きと情勢、海外情況、需給状態等をも併せ報導して參考に資せんとするものである。

創刊當時は記事も少く、頒布先も極く限られてゐて、刊行趣旨内を而も極く内輪に行つてゐたのであるが、旬報の事實上の生みの親育ての親であつて、現在は陸軍歩兵大尉として中支出征中の池谷頼緒氏が一手に編輯を引受け、鬼才縱橫、麗筆無盡の腕に物を言はせて以來、内容に幅と厚味がつき、他に専門的刊行物が有るか無しかであつたとは云へ、瞬く間に業界の凡ゆる方面から渴望せられるやうに盛り上げられたのである。而して、今事變勃發以來の統制策に影響され、旬報が骨抜きとなるまでは、少し誇張して言へば、業界唯一の公表羅針盤とまで稱へさせるに至らしめたのである。部數も200が400に、400が600に、600が800、1,000部にと發展一路を辿つたものである。

元より旬報をして光彩陸離たらしめたのは、旬報其のものが販賣部と云ふ大きな組織、強い地盤に根を張り、出でゝは業界第1線の

方々の庇護、後援が有たからであるが、それにしても同氏の努力と力とが大いに與てゐる事は否定出来ない。

旬報を語る時には必然的に池谷氏の横顔が浮んで来る。それ程に旬報と氏とは縁が深く、それ程に功績は大きかつたのである。

此の輝かしい旬報にも秋風の訪れる時が来た。

即ち一昨年8月池谷氏が名譽の應召をされると、續いて直後に賣出會議組織が變更されて、オブザーバーとしての旬報子の出席が拒まれ、彼是する中に數量關係の發表が禁止されたので、此處に於て遂に、正確と暗示を含むを以て自他共に許した独自の賣出會議々事録が得られぬ事となり、且つ10年苦心唱導して漸く得るに至る統計、日鐵ならでは集められぬ統計等を死藏せざるを得ぬ事となつて一變旬報に昔日の倂が見られず、精氣を缺くに至つたのである。

其の後の情勢に就ては、「更刊の辯」に於ても觸れたし、時勢と併せ慮れば、報導と統計から遠く逸脱するを許されず、而して餘り手を擴げられぬ組織の下に置かれてゐる旬報の運命は推して知るべきなので、此處では秋風落莫と云ふのみに止める。

尤も榮華の時を知てゐるが爲に物の哀れを痛感するので、第三者から眺められれば、或はそれ程落莫と映らず、現在の分相應には或はそれ程哀れでないのかも知れない。

其の點からして「送る」からには更生月報としての前途に幸多かれと言はう。

生命を打ち込んで、懸命に一句一句を追うた身には10年も夢の間に過ぎた思ひであるが、顧みれば旬報の歴史は新しいものではない、此の長途をよくも此處まで迎て来たものである。

今更に旬報と難路行を共にした人々の勞が憫ばれ、叱正と垂示を忝うした方々の御厚志が思ひ返へされる。

借越ながら此處に勞を稱へ、謝意を表させて戴く事とする。

終りに臨み、旬報に代つて池谷氏の御武運長久を祈り併而鴻恩を深謝す。

海外鐵鋼事情

アメリカ鐵鋼業の動向——新價格制を求めて

最近の如く薄板類の價格の著しく不安定な事は、1938年2月以來4度目であるが、これは近い將來に於いて、アメリカ鐵鋼業の價格政策の急激な轉換を招來するのではなからうかと考へられる。將來製鐵會社の或るものが、4半期毎に建値を決定しこれに基づいて取引を行ふといふ方法から、以前の現物取引基準制度に復歸するかも知れないといふ事も、想像出来ない事ではない。

スチール・コードによる經濟統制に入て以來、建値の發表は一般に四半期毎に行はれ、其の期に入る1ヶ月前に公表される事となつてゐた。ところが此の建値なるものが此處數年間に於いては、少くとも大部分の薄板類に關する限り、單なる形式的なものに過ぎなかつた。値引の行はれてゐる時機に必要な鋼材の手當をする事が、種々の理由から出来なかつたり又好きないやうな一部の買手に對する取引の場合は別として、大抵の場合に於いては、薄板やストリップのメーカー建値は殆んどノミナルなものであつて、實際には多少とも値引が行はれてゐたのである。

元來薄板、ストリップ等の價格は、鋼材の價格の動搖が起る度に、特に甚だしい影響を受けるのが常であつた。此の事實に鑑みて、薄板類の値引が間歇的に起るのは、主としてそれが龐大な生産能力を擁してゐるといふ事に起因するものである、と考へる向もあり、さうして斯かき意見に對して可成りの注意が拂はれてゐるのである。

然しながらこれと並んで、同じく重要な第2の原因は、恐ら

く昨年の6月に行はれた例のベイシング・ポイント間の建値の差額の撤廢と、新しいベイシング・ポイントの設定であらう。これ等2つの原因の中孰れが何の程度に現在の薄板の價格不安定の原因を成してゐるかといふ事は、遽に決定し得ない問題であるが、然しこれ等の2つの要因を結び合はせれば、それは甚だ重要な要因となるといふ事は多くの事實が傍證するところである。

昨年6月のピッツバーグ、シカゴ及びバーミンガムに於ける價格差の撤廢と、それと同時に行はれた新ベイシング・ポイントの追加とは、其結果として少くとも、鐵鋼生産の諸中心地をして、出来る限り多くの顧客を其周圍に集め、斯くする事によつて運送費を最少限度に止めようと努力せしめる傾向を生じた。其の結果多くの場合、斯くの如く生産地域に於ける獨占を確保する爲に、値引が行はれたのである。このやうな事實を正面から確證するに足る充分な證左はないにしても、斯様なベイシング・ポイントの増加が、製鐵業の地域的な分裂割據を惹起する傾向を有つ事を、傍證するものは少くない。

ところで斯様な傾向の意味するところは、結局總べての鐵鋼生産中心地が外部からの競争を防ぐ爲に自己の周圍に防壁を築き、其の圏内の消費者を自己の販路として確保しようと努めるといふ事である。然しながら鐵鋼生産地に於いては、其の地域内で生産される鐵鋼の數量は、多かれ少かれ其の地域内の消費量よりも大きい事は云ふまでもない。従て製鐵業は此のやうな割據によつて、満足するに足る業績を得る事が出来ないのは當然である。

今日の如く鐵鋼業に於ける競争の激甚な時代に於いては、一地方に於いて注文を得る爲に値引が行はれるならば、それは非常に短時日の間に其の取引圏内全般に知れ互つてしまふ。従て他の取引に於いても消費者は同じ値引を要求するのである。數年前ならば製鐵業者は、其の競争者がもつと安い値段でオフアしてゐるといふ事を、可成り長い間取引先から隠して置く事も出来たかも知れない。然し最近の經驗に依れば、此のやうな利益は永く得る事は出来ず、殆んど直ぐに他の製鐵業者の競争に逢着するのである。

以前は公表されてゐた價格からの値引は一般的なものではなく、單に特別の場合のみに行はれてゐたといふやうな事が多かつた。然し此のやうな時代は過ぎた。少くとも鐵鋼業に關する限り、最近の週期的な價格の下落が如何に輕視し得ないものであるかといふ事は過去3/4半期間の製鐵會社の營業報告に徴しても明らかである。多くの會社は現在のやうな状態を何時までも續けて行く事は財政的に不可能である。それだからこそ鐵鋼業に於ける多くの觀測者が、現在とは違つた新しい價格政策を求めてゐるのである。これは恐らくは最近のやうな1/4半期毎に建値を公表する方法を廢止するといふ形をとつて現れるであらう。

ところで目下の處、メーカーは根本的な態度として、たとへ價格水準が何處まで下らうとも競争を續けるであらう。現在鐵鋼取引に於いては、顧客は鐵鋼の價格が契約締結當時と同じであるか又は騰貴してゐる時は其の儘其の引渡を受けるが、もし價格が下落して居れば契約を取消すといふやうな状態であるが、メーカーの態度が其のやうに弱氣である以上、之も又已むを得ないものではあらうが、然し實に此の點に現在の鐵鋼取引の最大の弱みがあると考へられてゐる。もともと顧客は値引をさせて購入契約をした鋼材を、其の値引の行はれた期のうちに引取るものと豫想されてゐるのであるが、實際はなかなかその通りにはならない。或る場合には6ヶ月或ひはそれ以上も経過した後になつて、以前の安値で賣買契約の成立したものの引渡が行はれるやうな事もある。

此のやうな賣方の弱みを克服する一の方法として、少くとも薄板

類の販賣は、以前のやうに其の時々の賣値を建てる事とし、同時に之と並んで受註後30日以内に積出を行ふといふ方法を探る可きではなからうかと考へられてゐる。價格下落の時代に此のやうな方法を採るとすれば、それは結局、其の時々に判明してゐる限りの最大の安値を得ようとして週に數個の相場が出現し、さうして又此の方法に基づいて成立した契約は、總べて受註後30日以内に積出されねばならないといふ事になる。

此の價格政策轉換の運動は非常に劇烈な影響を與へるであらう。それは確かに價格低落の場合には、その低落の度を甚だしくするかも知れないが、その代りにその期間を短くするであらう。價格の騰落の波に乗じて、短期間の價格下落の時機を利用して必要な材料の手當を爲す事を望み、又それだけの財政的な餘裕のある消費者は、此の制度によつて利益を得るであらうが、一方將來の鋼材使用の確たる計畫を有せず、或は又資金を寝せる事を欲しない消費者は、必要に応じて其時々々の相場で買付けを行ふであらう。此の様な相場が前記の如き短期間の安値に較べて高いものである事は明らかであらう。

ブラッセル通信——6月24日發信

市況は不相變活氣に富み、輸出市場殊に軍需用材として英國向半製品を始め和蘭向厚板、日本向シートバー等多量の入註を見、殊に英國筋より輸入割當量以外7月より10月迄各月 50,000 乃至 70,000 t 納品の新契約大陸カルテルと成立、内大部分は自耳義メーカーへ割當てられたる由。一方内地景氣は不相變活氣に乏しく Cosibel 入註の振り合は8割輸出向、2割内地向を報じ居候。

紐育通信——5月31日發信

本年第1/4半期即ち1月~3月の日米貿易は米國商務省の發表に依れば輸出入共著しき減退を示して居る。即ち

對日輸出總額		日本よりの輸入總額	
本年第1/4半期	58,748,000弗	本年第1/4半期	28,888,000弗
前年同期	62,748,000弗	前年同期	30,306,000弗
昭和12年同期	77,322,000弗	昭和12年同期	53,718,000弗

之れを品種別に見るときは對日輸出に於て棉花、石油、鋼塊、バルブ、ブリキ板等の減退著しく、若干増加を見たるものは材木、屑鐵、動力機械、精鋼及飛行機の類である。又日本よりの輸入品は陶磁器、ゼツパー、玩具、刷毛等に於て輸入の著減を來たし多少増加を見たるは生絲、茶、蟹、綿製品に外ならない。

更に此輸出入額中、銑鐵、屑鐵其他鐵鋼製品に對する數字を捨て見ると下表の通りとなるが參考の爲、支那向及廣東向のものも併記して置く。(本數字は紐育日本人商業會議所週報に依る)

		數量		金額	
		本年1-3月	昨年1-3月	本年1-3月	昨年1-3月
日本向	銑鐵	9,000t	58,000t	130,000\$	961,000\$
	屑鐵	526,000	266,000	7,846,000	4,764,000
	鋼塊(ブルーム、ピレット、スラブ等)	26,000	45,000	977,000	1,635,000
	ワイヤーロード	764,000lb	6,045,000lb	13,000	141,000
黑鋼板		244,000	1,700,000	39,000	229,000
		787,000	12,106,000	19,000	264,000
ブリキ板		5,000	19,435,000	1,000以下	1,133,000
支那向	屑鐵	2,408t	33t	65,000	1,000
	ブリキ板	206,000lb	2,441,000lb	122,000	167,000
廣東向	鋼板	1,288,000	1,567,000	39,000	59,000
	ブリキ板	40,000	2,535,000	3,000	130,000
棒鋼		520,000	15,209,000	11,000	335,000
		29,008,000	19,411,000	506,000	399,000
建築用鋼軌		349t	6,827t	13,000	329,000
		--	13,569	--	582,000

6月7日發信

4月24日以後に於ける米國製鋼作業率は次の通りである。

5月1日	47.8%	5月22日	48.5%
5月8日	47.0%	5月29日	52.2%
5月15日	45.4%	6月5日	54.2%

最近に於ける製鋼作業率の足取は夏淡季に不拘豫想外の漸騰を示し本週の如きは54.2%の活況振を示してゐる。試みに先週に於ける作業状態を主なる「鐵鋼都市」別に調べて見ると

	先週の作業率	前年同期の作業率
ピツツバー	42.0%	18.0%
シシカ	53.5%	22.5%
東部ペンシルヴァニア	37.0%	26.0%
ヤングスタウン	48.0%	21.0%
フワイーリング	70.0%	38.0%
クリーヴランド	53.0%	31.0%
パフアロー	44.0%	21.0%
パーミングハム	60.0%	69.0%
ニューイングランド	35.0%	27.0%
シンシナテイ	60.0%	22.0%
セントルイス	37.5%	39.3%
デトロイト	57.0%	18.0%
平均	52.0%	25.5%

となつてゐる。

之が主なる原因として考へらるゝ點は先般來可成長期に亘て居た石炭労働者のストライキ解決によつて國內ミルが一齊に作業率を恢復し始めた事にも依るが何れにしても其飛躍率の甚だしき事年初以來のものであるだけに一般的に其前途に對し注目せられて居る所である。

屑鐵市況の如きも斯かる状態を反映し價格漸騰の傾向にあるが Iron Age 發表の6月1日 Composite Price は前週の14弗80仙に對し13仙の増加を示し14弗21仙に達した。

鐵鋼配給統制團體及鐵屑配給統制團體の追加

商工省は7月12日告示第152號を以て鐵鋼配給統制規則第3條の規定に依り下の通り團體を指定した。

日本纖維機械工業組合聯合會

日本船用鐵工業組合

尙同日告示第153號を以て鐵屑配給統制規則第6條の規定に依る團體を下の通り指定した。

日本纖維機械工業組合聯合會

社團法人帝國瓦斯協會

昭和14年6月及7月中の日本鋼材聯合會關係の日程

6月6日(火)	薄板共同販賣組合常務理事會	東京
12日(月)	鍛鋼協議會	東京
13日(火)	日本鋼材聯合會常務理事會	東京
14日(水)	棒鋼、形鋼共同販賣組合理事會	東京
	鋼板共同販賣組合理事會	東京
15日(木)	棒鋼、半製品共同販賣組合第2部理事會	東京
	半製品共同販賣組合鋼塊部理事會	東京
16日(金)	薄板共同販賣組合理事會	東京
23日(金)	鐵力板共同販賣組合理事會	東京
	帶鋼共同販賣組合理事會	東京
7月4日(火)	薄板共同販賣組合理事會	東京
	日本鋼材聯合會常務委員會	東京
5日(水)	棒鋼、半製品共同販賣組合第2部理事會	東京
	半製品共同販賣組合鋼塊部理事會	東京
6日(木)	鋼板共同販賣組合理事會	東京
	線材共同販賣組合理事會	東京
7日(金)	薄板共同販賣組合理事會	東京
	鐵力板共同販賣組合理事會	東京

東京大阪鐵鋼市況

問屋の販賣擔任第1線の達人は、數千越の手持品を品種、寸法別に詰りて左右の耳に受話器を當てがひながら、左右を使ひ分けて、いとも簡明直截に「それは何尺物が何越残てをりどこそこの物が何日頃何越入るが、何越は先約があるので何越賣れる」とか「それは品切だ」とかそれはマケられる、それはマケられぬとか活殺自在に捌いてゐるが、斯う云ふ鐵の中から生れて來たやうな其の道のエキスパートでも、1週間或は10日間も休むと勤が動かず、2,3日は皆目勝手が違て手がつけられぬと言ふ。

是れは自由主義經濟時代の事であるから、統制強行に依て、著敷く無味、單調となつてゐる近頃は、以前のやうに面倒な事はなく統制關係の事務繁忙は別として、總てが容易の方面に進んでゐるので、其の道の達人はいつ如何なる場合に臨んでも、直ちに活眼を開き得るであらうが、素人はそれは行かない。素人は情け無い事に今日でも尚ほ常に市場に接せぬと市場の眞の流れは元より大勢も呑み込み難く、遠い世界を眺めるやうに、ピントを合はせる事は中々困難であらうとは想像してゐるが、案の定、月報と決てから此處暫く市場に御無沙汰してゐて、過日久し振りに調査に出掛けた處、勤が鈍て暗中摸索の態となり、從て本號の此の欄も大分粗笨のものとなつた。

旬報が月報となつたのは事務的に人手が不足した事が直接の原因であるから、今後共餘り度々は所謂市中廻りに出掛けられぬであらうが、精々勉めて調査の機會を作り、魯鈍に鞭て責を果さんと期してゐるので、本號の不備、不足は寛恕され度い。

尚ほ本號は7月7日發行豫定が、手續上の都合に依り15日に延期され、記事は其の儘としたので、市況が稍々舊聞に屬する事となつたが、それは上記の次第、御諒承を願ふ。來月からは市況は下旬、發行は7日と承知せられ度い。

市場から受けた感じは依然として殆ど變らず、品拂底にして窮窟を極むる商狀と言ふに盡きるが、嚴密に言へば、6月は店賣向の賣出無く、緊急向のみであり、一方需要家は先行多少値下げと知てゐても、現實に品物が欲しいので、買氣は一向に衰へず、入用は遠慮無く呈示されるので、先行は安心が持てなくなり、從て現實に手持に言ふべき程の差違は無いのであるが、窮窟觀に微進を示してゐるやうに窺はれる。

東京市況

丸 鋼 6mm は大阪よりの補足配給は杜絶してゐる。それに反して昨今は東伸が臨時物を極く少量ではあるが引受け、ロッドの利用物が見えるやうである。然し何れにしても手持として残る程の供給は無く、切符の消化が遅々として進まず、其の點は不相變で、不自由の域を往來してゐる。値段は大伸物でなければ28圓前後の筈であるが、多少共大伸物が残てをればそれに目標が置かれて引張られて行くのは避けられぬであらう。7.5mm は少量の臨時物に據るのみではあるが需要が僅少なで積極的に不自由の聲は出て來ぬやうである。規定値段は26圓揃である。

9mm, 12mm は伸鐵の特急向の残滓が大手問屋に非々入るやうである。尚ほ9mm に日鐵物、12mm に共販物が少量ながら入荷するやうで、供給絶無ではないが、切符が多數残てをり、不斷に入用が出る物なので不自由の度は毫も改まらない。9mm の不自由は殊に深刻のやうである。値段關係は不變。

16mm~32mm は非々入荷を見るが、依然として右から左に消え去る。切符が山積してをり、有れば欲しい手が後から後に控へてゐるので昨今の入荷では全く燒石に水で、ベース丸は正に飢饉を以て目

すべき状態と言はれてゐる。就中16mm は能率關係で出廻りが悪く、市中殆ど品切の模様である。値段は無い物相場で30圓前後を唱へられる場合があるかも知れぬが、卸賣の規定値段は16mm 19圓40錢、其他18圓90錢見當である。

36~48 は38, 44 に相當切符が出て來るが、其の他に對する入用には迫力が無い、從つて久しい間の此の邊に對する申込減に伴ひ、在庫が拂底してゐるに不拘、不足を啣たれぬ由。値段は19圓90錢である。

50~100 は鋼管、東海、宮から比較的順調に入荷するやうになつたが、久しく積遅れてゐる切符が大分待てゐるので、素通的に消化されて尚ほ甚敷く不足を感じしめられてゐる。中間鋼は建値訂正後積出状態が平常に復し、連れて市中在庫は漸減を來してゐるが、之れは未だ多少残てゐるので、中間鋼を利用する向は比較的手當に苦勞せぬやうである。然し中丸は日鐵に餘裕を生ぜぬ限りは所詮常に入用に追ひかけられざるを得ぬであらうと見られてゐる。太丸は130mm 位までは普通物とSR39 程度の物とが非々出廻るが大體實需に引當てられて残らぬやうである。日鐵物は軍部の白切符は受けられるが、一般向としては引受け皆無である。太丸の商内は特殊筋間に限定されて普遍性を喪失し、當分は所謂市場品としては近寄り難いと見られてゐる。

角, 平鋼 角鋼6mm は依然として供給皆無で品切の儘に推移してゐる。7.5mm, 9mm は伸鐵が極く少量宛出廻り、12mm は大阪から多少流入してゐる。從て入用が屏息してゐる上に狭少ながら供給道が残されてゐるので、不如意觀は非常に柔らげられてゐて、いざ買ひ度いとなれば、品物を手に入れる事は困難を極めるのであるが、餘り問題とされぬと云ふのが實情である。16mm~32mm は入荷皆無で、品切状態ではあるが、性來需要が積極でない上に、何うにもならぬ境遇に浸てゐて、充分鍛鍊されてゐるので、觀念商狀を呈してゐる。

38mm~75mm までには中には大阪伸鐵物が少量ながら出廻り、急需に應ぜられる場合があるが、日鐵物は短尺も望み無く、角鋼の出廻りは皆無と言へるので、一般には文字通り飢饉觀を以て迎へられてゐる。當分は不足緩和の見込み無し。

75mm 以上は短尺も出廻らず、大體品切でピレット等を代用する手が残されてゐるのみである。

平鋼3mm 厚は19mm 幅までは比較的入荷順調である。就中9mm 12mm 幅が多いやうである。19mm 幅以上は材料難で殆ど出廻らず拂底を極めてゐる。50mm 幅以上は品切で、フープを代用して、細々需要を充してゐる状態である。値段關係不變。小形平は釜石、富士及東京シャーから少量宛入荷するらしいが、切符が多量待機してゐるので燒石に水で、市中在庫は極端に拂底してゐる。目先供給増の見込が無く、不自由を極めつゝ推移すると見られてゐる。

75mm 幅以上は急需に對し、大伸物が流入するのみであるが、補足配給は取引上兎角手数が掛るし、採算上も面白くないので東西問屋に共に喜ばれず、從て元々漸減しつゝあつたものが更に流入力を減じて、75mm 以上は極端なる窮窟状態に置かれてゐる。値段は適當に建値223圓見當と言はれてゐるので、それから計算するとエキストラ5圓の物は、東京置場渡値段は26圓80錢揃が規定であるが、エキストラの高い物も有るので、それに引き寄せられる一方小額ながら別に利益を見てもらふ場合も有てエキストラ5圓の物でも27圓5,60錢揃を唱へられる物も無くはないやうである。値段構成の根本に變化は無いので前報に誌した値段を踏襲しておいてよい

のであるが、伸鐵の價格統制も嚴格に成りつゝあるので、其の氣配を含めて、最低と思はるゝものも併記する事とした。

形鋼 小山形A級は大伸物が假令來るにしても極く特殊關係に依て處分されて問屋、需要家共に大部分は臭も嗅げぬ状態である。大體品切状態と見てよいとの事である。若し有れば値段關係は不變の筈である。B級は共販メーカーからの入荷一服、僅に大伸物が入るか入らぬかの程度で、各方面共激しく窮窟を感じてゐるはに相違ないが、此處へ來るまで暫くの間比較的順調に出廻り、稍々切符が消化され旁々供給の窮窟なるを覺悟されてゐるので餘り無理を冒して賣買せんとせず、多少待つ氣配を生じてゐる。値段關係不變C級は5×30が入用減に依て残てゐるが、概して積遅れで、最近は一頃よりは市中在庫が減少し、餘てゐる觀は大分薄らいだやうである。然し切符が多くないので不足を告げる聲は小さい。

中山等邊は需要大で、大阪方面からも注文が押寄せせる状態である。二、三メーカーが比較的良く賣出すのではあるが到底賄ひ切れず、入荷は右から左に消えて常に拂底を告げる有様である。中形工場は大多忙で、現在市場に出してゐるメーカーの中形生産力も、今後漸次市場向が壓迫される趨勢なので、生産擴充用の一部が充たされる以外は當分極端なる窮窟状態を續けざるを得ぬやうである。値段關係不變。不等變中山は入用が左程多くないので、現在では事實多少残てをり且つ不足觀が市場に覆ひ冠さつてゐると云ふ程ではないが、等邊が飢饉の爲め其の代用に供せられ、旁々此處へ來て新規入荷が中絶状態を呈してゐるので市中在庫は漸減傾向を迎へてゐる。之れも亦漸次供給減を深めて一般需要は入手中々困難と云ふ事になるのではあるまいか。

大山形は130×130が消化されて品掠を來してゐるが、三、四工場から發生、新作取り混ぜて弗々ながら入荷するし、切符も少いので之れは何うやら間に合ふ感を持たれてゐる。一頃よりは減少してゐるが、比較上は依然として最も潤澤に残てゐると見られてゐる。

溝形は90×250までは鋼管物に依存し、入手率比較的良し。それ以上の大形物は市場向の賣出し無く、市中在庫拂底を極めてゐる現物の賣買は殆ど不能である。尤も、問屋——指定商——共販組合の經路を辿り、需要の必要程度を斟酌し、臨時に引受けられる場合が有るので、三、四ヶ月の餘裕を持つならば入手不可能ではないが、所詮は燒石に水で、全般的に其の恩恵が及ばず、大體飢饉觀を以て見られる事勿論である。

工形鋼は7.5×125×250は目下ロールされてゐる筈なので之れも多かれ少かれ出廻る筈である。之れを境として情勢は溝形に酷似してゐるが、何れかと云へば溝形に比し大きい物の供給力が稍々劣り切符が稍々少いやうである。溝、工共値段關係不變。

鋼板 1.6×3×6大口に抱へて持て餘し氣味であつた店の手持が大分消化されて其處から發散される比較上の荷凭れ觀が緩和され、一方3×6ならでは引受けぬと云ふやうな供給情勢も訂正され、引續き賣出状態が大いに考慮されてゐるので、3×6多しの觀は大いに改められてゐる。賣買に困らぬがさりとて過分ならざる供給状態を呈してゐる。4×8は極く少量の入荷を見るが、積出し不圓滑で、切符に追ひ掛られ、依然として拂底を極めてゐる。5×10は出廻り皆無に近く、賣買殆ど不能であるが、切符も亦少いので開店休業状態である。23は全般的に積出し不順調で、品掠を續けてゐるが、切符が少いので賣買共に苦痛は少い。5×10の如きは品薄ではあるが賣買左程困難ではないやうである。

3.2, 4.5は弗々ながら緊急物に向けられ、少量ながら店賣も出る

一方新規切符が殺到せぬので、下足勝ちなは勿論であるが、小口入用には稍々應ぜられてゐるやうである。然し市中在庫が極減してゐる事として現品を急ぐ入用或は大目需要は手當難を極めてゐる。6mmは共販直接積とシャーから出る物、8mm以上はシャーからの供給で細々賣買を續けてゐる。鋼板の値段關係は不變。

大 阪 市 況

丸鋼 今更事新しく書くのも何だか變なやうであるが亞細亞は亞細亞民族の亞細亞である。苟も事の亞細亞民族全體の利益幸福、乃至共同文明の發展向上に關する限り、何等亞細亞に關係のない異民族の干涉を受くべき性質のものでない。亞細亞の事は須らく亞細亞人自身の手にて依て處理さるべき約束の下に、吾等民族は置がねばならぬ。恰も北米合衆國が、モンロー主義の名に依て西半球を支配するやうに、而して吾等民族も大亞細亞主義の目標の下に足並みを揃へねばならない。ヨリ偉大なる目的のために如何なる場合にも小異を捨て大同に就くの準備と覺悟を必要とする。然らざれば結局亞細亞は恐るべき白哲人物の喰物となり、永久に浮ぶ瀬が無いかも知れない。この意味からして今次の支那事變は當に日本帝國々民に對してのみならず全亞細亞民族に對する一大警鐘といはねばならぬ。東亞の盟主日本は亞細亞民族の亞細亞の建設を完成する迄は苟も寸分の隙があつてはならない。我鐵鋼人も將來東洋に於ける鐵鋼市場の全支配權を握る上に於て最も必要なことは以上に述べた如く如何なる場合にも小異を捨て大同に就くの準備と覺悟とである。

4.5mmは最近神戸製鋼よりの出廻りは殆んどないため市中ストックは皆無といはれてゐる。6mm及び8mmも亦伸鐵材料難のため市場では極度の拂底を示してゐる、9mmは弗々積出されてゐるが順次消化されてゐるやうである。市中ストックは相變らずないやうである。12mmは材料關係から出廻り不圓滑なため商内らしい商内は出來ない模様である。ベースもの16mm~19mmは目下品切れ状態といはれてゐる。積出し不順調である。22mm~32mmは出廻りは弗々あるやうである。賣行もポツポツ程度といはれてゐる。

小中丸は少量乍ら積出されてゐるやうであるが既契約品の充當に手一ぱいである。其他の一般中丸は發生品其他中間鋼のみといはれてゐる。普通品の積出しは殆んどない様子である。太丸は發生品及び短尺物が市場に散見せられる程度といはれてゐる。

角、平鋼 小形角鋼は殆んど伸鐵分野に屬するものであるが材料關係で出廻り皆無といはれ従て市中ストックは極度の拂底を示してゐる。中形角鋼も亦出廻り不圓滑旁々市中ストックも皆無の所から商内は殆んど出來ないやうである。大形角鋼は一般に極端なる品掠れのため一部鍛鋼品に間に合はせてゐるやうである。

平鋼はAサイズは伸鐵材料難のため市中は品切れ状態といはれてゐる。反之Bサイズは弗々乍ら出廻るので、この所大して不足は感じない模様である。

形鋼 小形アングルAクラスは伸鐵品のストックが少しある程度にて出廻りはまことに僅少なためストックも漸減の態といはれてゐる。Bクラスも亦市中ストックは少々ある様である。即ち東海鋼業のもの及び伸鐵品が多少ある様である。Cクラスは4×45が賣出しが少きため市中在庫は殆んどない様である。其他のサイズは出廻りが可成り圓滑であるので市中ストックも相當ある様子である。

中形等邊アングルは極端なる品掠れを示現、弗々積出されてゐるが全く燒石に水の有様といはれてゐる。

中形不等邊アングルは概して品揃れの状態である。但し 90×125 及び 75×125 等は出足の鈍き品であるので市中ストックは可成りある模様である。70×100 は全く品切状態といはれてゐる。

大形等邊アングルは目下市中ストックは可成り多いやうである。日鐵及び尼鋼よりの發成品が可成り順調に積出されてゐるやうである。

大形不等邊アングルも亦殆んど以上と同様の市況を呈してゐる。チャンネルは中形ものは目下尼鋼及び鋼管のものが多少ストックがあるやうである。但し 40×75 は皆無の状態といはれてゐる。フランジ 250mm 以上の大形ものは發成品が多少ある外は概して品皆無といはれてゐる。

ジョイストも亦發成品が少しある外は品切状態といはれてゐる。

鋼板 1'6mm は 3×6 が市場に散見せられる程度と云はれ取引も弗々あるやうである。4×8 及び 5×10 は品切れ状態といは

れ、出廻りも皆無といはれてゐる。

2.3mm, 3.2mm, 4.5mm 及び 6mm 厚は各サイズ共積出しが弗々あるやうであるが、市中ストックは殆んどないやうである。

8mm 以上の厚板は出廻り皆無なるためシャーから小買する程度といはれてゐる。

線材 神戸製鋼及び中山製鋼よりは弗々積出しがあるやうであるが未だ本格的ではない。小倉製鋼の製品は可成り順調に積出されてゐるやうである。日鐵品も亦至極順調に出廻るやうである。乍ら製品加工々場への手當が充分でないので各問屋共商内は至極閑散といはれてゐる。

ブリキ 市中ストックは相變らず拂底の状態である。尼崎、中山よりは可成り順調に積出されてゐるが淀川製鋼及び日鐵よりの積出不圓滑なるため各問屋共閑店休業の状態である。

東京大阪市中相場

東京—6月28日

大阪—6月28日

鋼			等邊山形鋼			鋼板		
	東京	大阪	mm mm mm	東京	大阪		東京	大阪
6mm	29'00	22'00	3× 20× 20	31'50	伸 30'50	1'6mm×3'×6'	26'20	26'25
9	22'10~24'20	"	3× 25× 25	30'00	伸 28'35	1'6×4×8	27'30	27'30
12	21'00~24'10	21'00	5× 40× 40	19'90	19'90	1'6×5×10	28'40	—
19	18'90	18'85	6× 45× 45	"	"	2'3×3×6	25'70	25'70
25	"	"	6× 50× 50	20'40	20'45	2'3×4×8	26'80	26'80
50	21'50	伸 27'30	6× 65× 65	19'40	19'40	2'3×5×10	27'80	—
65	"	"	9× 75× 75	"	"	3'2×3×6	25'20	25'20
130	26'20	—	9× 130× 130	20'40	20'45	3'2×4×8	26'20	26'25
150	"	—	12× 130× 130	"	"	3'2×5×10	27'30	27'30
200	28'40	—	15× 150× 150	"	"	4'5×3×6	24'10	24'10
						4'5×4×8	25'20	25'20
						4'5×5×10	26'20	26'25
						6'0×4×8	22'60	22'55
						6'0×5×10	"	"
						9'0×4×8	22'00	22'10
						9'0×5×10	"	"
						12'4×8	"	"
角鋼			不等邊山形鋼			薄鋼板(13枚)		
	東京	大阪	mm mm mm	東京	大阪		東京	大阪
9mm	26'20	伸 26'25	9× 50× 75	20'40	20'45	川	1'03	1'02
12	28'00	伸 26'80	10× 75× 100	"	"	八	"	1'02
16	20'40~27'00	20'45	10× 90× 125	"	"	ブリキ		
19	"	"	9× 100× 150	21'00	21'00	米	170lbs	—
38	21'50~28'00	伸 26'80	12× 100× 150	"	"	{ 200	—	—
50	22'60~28'00	伸 "				{ 170	—	—
65	22'60~29'00	伸 27'80	溝形鋼			{ 200	—	—
100	24'70	—		東京	大阪	英	170	—
			mm mm mm	22'60	22'55	{ 200	—	—
			5× 50× 100	21'50	21'50	八幡	170	38'00
			6× 65× 125	"	"	{ 200	39'50	40'00
			6'5× 75× 150	"	"	W. W 200	39'50	
			7'5× 80× 200	"	"	線材		
			9× 90× 250	"	"	B. W. G. #5	193'00	193'00
			10× 90× 300	"	"			
平鋼			工形鋼					
	東京	大阪	mm mm mm	東京	大阪			
3mm×25mm	26'20	伸 26'25	5'5× 75× 150	21'50	21'50			
9× 19	20'40	"	7× 100× 200	"	"			
6× 25	"	"	10× 125× 250	"	"			
6× 38	"	20'45	8× 150× 300	"	"			
6× 50	"	"	12× 150× 350	"	"			
6× 75	26'80~27'60	伸 25'50						
9× 100	"	"						
12× 100	"	"						

備考 單位 100kg につき(置場値段), 但し薄板は 1枚當り、線材は t 當り、ブリキは 1函當り

昭和14年6月中發表各種鋼材建値表

(其の1)

所屬別	品 種 別	建 値 日	建 値 (円)	定 尺 (呎)	エキストラ (円)	備 考			
鋼 共 販	丸鋼	ベース(19mm~32mm)	6-13	175	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	ベース	8, 9月積, 据置 長さのエキストラ 34呎迄の不定尺 5圓増 34呎超 45呎迄 6圓増 45呎超 50呎迄 8圓増 50呎超 別途協議の事 2級品の格差 小形丸鋼 3圓落以内 中形丸鋼 10圓落以内 小形角鋼 3圓落以内 中形角鋼 10圓落以内 小形平鋼 10圓落以内 中形平鋼 10圓落以内 中間サイズは別途協議の事 規 格 料 (日本標準規格に據る)		
		55mm, 6, 8, 9	"	205	12	+30			
		12(總數量の25%以内)	"	195	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	+20			
		16	"	180	"	+5			
		36~48	"	185	"	+10			
		50~85	"	200	12, 15, 18	+25			
		90, 95	"	210	"	+35			
		100	"	230	"	+55			
		100超~150	"	245	"	+70			
		150超~200	"	265	"	+90			
		角鋼	16mm~32mm	"	190	"		+15	鐵道車輛用 { S. R. 34 50 S. R. 39 20 壓延鋼材 { S. R. 44 60 S. R. 50 80 構造用 { S. S. R. 34 50 S. S. 39 20 壓延鋼材 { S. S. C. 39 20 造船用 { S. M. R. 39 20 壓延鋼材 { S. M. R. 41 50 罐 用 { S. B. R. 34 90 S. B. R. 41 60 壓延鋼材 { S. B. 41 90 S. B. 44 100
			36~48	"	200	"		+25	
	50~80		"	210	"	+35			
	90~100		"	230	"	+55			
	100超~150		"	245	"	+70			
	平鋼		小形 65mm以下	"	190	"	+15		
		中形 65超~130	"	200	"	+25			
	形 鋼 共 販	小形等邊山形鋼	A 3mm×20mm×20mm	6-13	210	12, 15, 18, 20	+25	8, 9月積, 据置 長さ又は切揃のエキストラ 25呎超 40呎未滿 { 大形 10圓 中形 5圓 40呎超 60呎以下 { 大形 15圓 中形 10圓 50 呎 超 { 大形 20圓 中形 15圓 25 呎 未 滿 { 大形 15圓 中形 10圓 2級品の格差 小中形 3圓落 大形 規 格 料 (日本標準規格に據る)	
			B 3×25×25	"	200	"	+15		
			3×30×30	"	200	"			
3×40×40			"	200	"				
5×30×30			"	185	"				
5×40×40			"	185	"				
4×45×45			"	185	"				
6×40×40			"	185	"				
6×45×45			"	185	"				
小形不等邊山形鋼			A 3×40×20	"	210	25, 30, 33, 36, 40	+25		
			5×40×20	"	210		+10		
			B 4×50×35	"	195		+10		
		6×50×35	"	195	+10				
中形山形鋼		等邊(50mm以上 100mm以下)	"	180	25, 30, 33, 36, 40	ベース			
		4×50×50	"	195		+15			
		6×50×50	"	190		+10			
		8×50×50	"	190		+10			
大形山形鋼		不等邊(邊の和100mm以上 200mm以下但し 125×90を含む)	"	190	25, 30, 33, 36, 40	+10			
		等邊(邊 100mm 超)	"	190		ベース			
		200×200	"	198		+8			
	不等邊(邊の和 200mm 超但し 125×90を除く)	"	195	+5					
大形工形鋼	100mm×75mm以上	"	200	25, 30, 33, 36, 40	ベース				
	400×150	"	202		+2				
	450×175	"	203		+3				
	20'×7½'	"	203		+3				
	24×7½	"	206		+6				
	大形溝形鋼(高100mm超)	"	200		"	ベース			
中形溝形鋼(50mm以上100mm以下)	125mm×65mm以上	"	210	25, 30, 33, 36, 40	+10				
	100×50	"	210		+10				

昭和14年6月中發表各種鋼材建値表

(其の2)

所屬別	品 種 別	區 分	建 値 月 日	建 値		エ キ ス ト ラ	備 考			
				シ ー ヤ 及 間 屋 向	賞 需 向					
鋼 板 共 販	耳 付	小 形 (12mm×5' ×20'以下)	6mm超 12mm以下	6-14	175		ベ-ス +5 +10 +10 +15 ベ-ス +5 +5 +20 +30 +40 +30 +40 +50 ベ-ス +5 +10 +15	7, 8月積, 据置 其の他エキストラ 6mm厚のものに付幅5呎超 20圓 7呎~7呎6吋迄 15 7呎6吋超~8呎迄 20 8呎超~9呎迄 25 9呎超~10呎迄 30 10呎超 40 厚 { 25mm~35mm迄 10圓 35超~40迄 20 40超~45迄 30 45超~50迄 40 長さ 30呎超 10圓 規 格 料 (日本標準規格に據る) S. S. 39 20圓 S. R. 34 80 B. R. 39 20 S. R. 44 30 S. M. 41 30 S. M. 44 30 S. B. 34 90 S. B. 39 80 S. B. 41 10 S. B. 44 80		
			6mm	"	"	180				
	大 形 (12mm×5' ×20'超)	12mm超 25mm未滿	"	"	185					
		6mm超 12mm以下	"	"	185					
	定 尺 (3呎×6呎, 4×8,5×10)	6mm超 12mm以下	12mm超 25mm未滿	6mm	"	"			205	215
				6mm	"	"			210	220
		4.5mm	3×6	3×6	"	"			210	220
				4×8	"	"			225	235
		3.2mm	4×8	3×6	"	"			225	235
				4×8	"	"			235	245
		5×10	3×6	3×6	"	"			245	255
				4×8	"	"			235	245
		5×10	4×8	3×6	"	"			245	255
				4×8	"	"			245	255
	切 板	小 形	厚 板	ベ-ス	"	"			220	220
6mm				"	"	225	225			
大 形	厚 板	ベ-ス	"	"	230	230				
		6mm	"	"	235	235				
薄 板 共 販	31番 30 29 28 27 26 25 24 22 20 18	3呎×6呎 3×6 3×6 3×6 3×6 3×6 3×6 3×6 3×6 3×6 3×6	(13枚入)	6-15	260		8月積, 据置 其の他エキストラ (1) 30吋×5呎 3圓 30×7 7 30×8 8 30×9 18 3呎×7呎 5 3×8 10 (2) 其の他の特殊寸法はエキストラ 20圓以内とし其の都度協定の事 (3) 規定外寸法は近似寸法の高き方の値段による事			
			(12枚入)	"	"	260				
			(11枚入)	"	"	258				
			(10枚入)	"	"	258				
			(9枚入)	"	"	256				
			(8枚入)	"	"	256				
			(7枚入)	"	"	254				
			(6枚入)	"	"	254				
			(5枚入)	"	"	252				
			(4枚入)	"	"	252				
			(3枚入)	"	"	250				
			1'6mm 2mm	3呎×6呎	4×8	"		"	245	ベ-ス
					5×10	"		"	255	+10
					5×10	"		"	265	+20
			2.3mm	3×6	3×6	"		"	240	ベ-ス
4×8	"	"			250	+10				
5×10	"	"			260	+20				
鉄 力 板 共 販	170 lbs	(20吋×28吋×112枚入) 1	函	6-19	36'00		7月積, 据置 定期賞需家向はオイルサイズ胴板 1函に付 43 錢 天地板1函に付 60 錢, 其の他のサ イズ1函に付 75 錢増 發生品小板(14'×20')は各サイズ 各級値段に對し 30 錢引			
			200 lbs	"	"	37'50				
	110 lbs	石 油 罐 用 胴 板 (14吋×18¾×124枚入)	函	"	"	21'50				
			156 lbs	石 油 罐 用 天 地 板 (10吋×20吋×225枚入)	"	"		30'00		

昭和 14 年 6 月中 發表 各種 鋼材 建値 表

(其の 3)

所屬別	品 種 別	區 分	建 値 月 日	建 値	備 考				
半 製 品	半 製 品	鋼塊	半 硬 鋼	6-14	175	8, 9 月積, 据置 1. 鋼塊 單重 500kg 以上, 2,000kg 未滿 最高 20 圓 2,000kg 以上, 3,000kg 迄 " 35 3,000kg を超ゆるものは別途協議の事 チップング費用は別途申受けの事 2. 鋼片 邊又は徑 75mm 未滿のもの及 180mm を超ゆるものに付ては別途協議の事			
			硬 鋼	"	183				
			最 硬 鋼	"	191				
			半 硬 鋼	"	193				
			最 硬 鋼	"	208				
品、 棒 鋼 共 販 第 2 部	棒 鋼	鋼片	半 硬 鋼	6-14	225	徑のエキストラ 8, 9 月積 丸 鋼 5.5mm~6mm 50 圓 8, 9 11~13, 50 以上 100 迄 40 100 超 150 迄 25 150 超 200 迄 70 90 角鋼は全部丸鋼の 15 圓増 六角鋼のエキストラ 12mm~17mm 100 圓 17mm超~20mm 80 29~58 50 30 圓 橢圓鋼のエキストラ 平鋼のエキストラ 厚 幅 1/2" x 3/8 又は 1/2" 150 圓 3/8" x 3/8 又は 3/4 又は 1 140 1/2" x 1 1/4 - 6 130 3/8 x 1 1/4 - 6 70 1/4 x 3/4 - 4 30 1/4 x 4 1/2 - 6 50 3/8 - 1 1/4 x 5/8 - 4 30 3/8 - 1 1/4 x 4 1/2 以上 50 1 1/2 x 2 - 4 30 1 1/2 x 4 1/2 以上 50 1 1/2 超 x 3 以上 30			
			硬 鋼	"	235				
			最 硬 鋼	"	245				
			鍛 造 丸 鋼 及 角 鋼	最 硬 鋼	半軟鋼 { 100mm ~150mm		6-14	410	8, 9 月積, 据置 平鋼は各鋼質共丸, 角鋼値段の 1 割増の事 長さの標準は丸角單長 3m~4m, 平 (幅 150mm 以下) 2m~4m, 其他は別に協定の事
					半硬鋼 { 150mm超~200mm		"	470	
200mm ~300mm	"	505							
硬 鋼 { 100mm ~150mm	"	425							
150mm超~200mm	"	485							
線 材 共 販	普通線材	鋼塊	100mm ~150mm	"	520				
			150mm超~200mm	"	440				
			150mm超~200mm	"	500				
			200mm超~300mm	"	535				
			200mm超~300mm	"	535				
線 材 共 販	普通線材	鋼塊	5.5mm	5-11	185	6, 7 月積, 据置 特殊線材太番のエキストラは t 當 10 圓とす			
			太番(7mm~13mm)	"	215				
			熔 接 用	"	245				
			低 炭 素 品	"	230				
			半 硬 鋼	"	240				
			硬 鋼 A	"	260				
			硬 鋼 B	"	250				
			電 信 線 用	"	230				
合 銅 線 裝	"	220							
					240				

上記鍛造丸鋼及角鋼の建値實施方法.

- (1) 市販品に對しては
 - (イ) メーカーは本日以後賣出のものより新建値による.
 - (ロ) 既約定品中本年 5 月末日迄に積出すものは既契約値段による. 6 月 1 日以降に積出すものは新建値による.
 - (ハ) 5 月末日迄の間屋の販賣値段は舊建値を基準とし 6 月 1 日よりは新建値を基準として販賣するものとす.
- (2) 實需向に對しては
 - (イ) 本日以後引受けのものより新建値による.
 - (ロ) 既契約は其の儘とす.

昭和14年6月中發表各種鋼材建値表

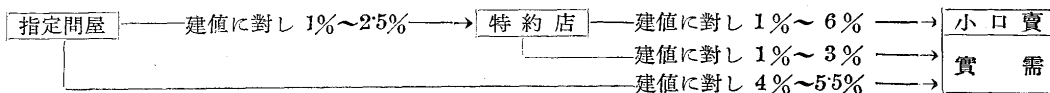
(其の4)

所屬別	品 種 別	區 分	建 値 月 日	建 値	備 考	
帶 鋼 共 販	厚 0.9~1mm	幅 19~24mm	6-16	285	7, 8月積, 据置 但幅 171mm 以上幅 170mm をベースとして 1t に付 15 圓増のこと エキストラ (1) 中間サイズは 5 圓増のこと (2) 厚さ 3mm 超は 5 圓増のこと	
			〃	275		
			〃	260		
	1.1~1.3mm	25~35	〃	270		
			〃	280		
			〃	265		
			〃	255		
			〃	250		
			〃	255		
	1.4~2mm	36~49	〃	260		
			〃	270		
			〃	255		
			〃	250		
			〃	245		
			〃	250		
	2.1~2.5mm	50~121	〃	255		
			〃	250		
			〃	245		
			〃	250		
			〃	255		
			〃	250		
	2.6~3mm	122~150	〃	255		
			〃	250		
			〃	240		
〃			245			
〃			250			
〃			250			
日 本 製 鐵	美 裝 鋼 板 { 1.6mm } # 18	白 鳩 印	6-9	問屋向 263	實需向 276	7, 8 月積, 据置
				278	292	
	縞 鋼 板			255 (標準 値段)	全部實需向なり	
	珪 素 鋼 板	B 級 C 級 D 級 T 級 T S 級		6-8	310	据 置
				〃	340	〃
				〃	375	〃
				〃	455	〃
〃				500	〃	
ス コ ッ プ 用 鋼 板	{ 1.8mm x 3' x 6' 1.85 x 3 x 6		6-8	問屋向 300	實需向 310	4' x 8' のエキストラは 10 圓 一般硬板と同値とす
重 軌 輕 軌	條 (繼目板共) 條		6-	210	据 置	
			6-	210	〃	
鋼	矢 板		12-5-25	205	指定河岸渡 t 當り値段なり	

註 上掲の諸共販組建値に對する指定問屋及特約店の口錢並びに建値の實施方法は下の如くである。

棒鋼, 形鋼, 鋼板共同販賣組合の指定問屋及特約店の口錢に關する取極は下記の通り。

(1) 指定問屋及特約店の口錢。



(2) 本口錢は總て共販建値を基準として徴するものである。

(3) 小口賣と云ふは大體に於て 1 日 1t 以内契約のものを云ふ。

(4) 當分の間指定問屋は所定口錢の外臨時口錢として 1t 金 4 圓以内を加算し販賣することを得。

(5) 特約店は指定問屋が所定口錢及び臨時口錢を加算したる値段に特約店の所定口錢と更に臨時口錢として 1t 金 4 圓以内を加算し販賣することを得。

(6) 以上指定問屋及特約店の賣値は自家店舗又は置場渡の値段で、其以後の配給に要する運賃は實費のみを請求し得。